

Case 35-2007: A 30-Year-Old Man with Inflammatory Bowel Disease and Recent Onset of Fever and Bloody Diarrhea (New England Journal of Medicine 2007; 357:2068-76)

【Problem List】

#1 発熱

入院 14 日前に 39.4°C の発熱があり、acetaminophen により治療されていたが解熱せず、入院当日も体温は 39.4°C に達した。入院後の levofloxacin 投与にも反応せず、4 日目に至るまで 38.8°C ~ 40.0°C であった。

#2 腹部症状

#2-1 腹痛

入院 6 日前に腹痛を自覚した。入院当日に増悪し、入院 4 日目でも軽快していない。

#2-2 血性の下痢

入院 6 日前、1 日 3~4 回の血性の下痢があった。入院後も継続している。

#2-3 腹部圧痛・筋性防御

入院時の診察で下腹部に圧痛と軽度の筋性防御を認めた。

#3 肝酵素の上昇

入院時 ALT 90U、AST 64U であった。入院 7 日目、ALT 117U、AST 107U まで上昇。

#4 異型リンパ球の存在

入院時の血液検査で認められている。

#5 比較的徐脈

入院時の心拍数は 70 であるが、40.5°C という体温を考慮すれば比較的徐脈と考えられる。

#6 感染症検査

入院 2 日目、CMV 抗原血症検査において 2 枚のスライドで 13 個の細胞が陽性であった。また、抗 CMV IgG 抗体陽性であった。一方、コクサッキーウイルス・HIV-1・HIV-2・異好性抗体・enterovirus・HCV-RNA・EBV-DNA はどれも陰性であった。

#7 炎症性腸疾患

3 年前に診断されている。以来、2~3 ヶ月ごとに再燃・寛解を繰り返している。治療には mesalamine と corticosteroid を使用している。

#8 その他

乾性咳嗽・鼻漏・筋肉痛

入院 14 日前に #1 とともに認めたが、acetaminophen による治療の過程で軽快している。

悪寒・戦慄・疲労感・びまん性の関節痛・筋肉痛

入院 6 日前に認めている。

嘔吐

入院当日嘔吐あり。

収縮期雑音・僧帽弁逆流

入院時の診察で収縮期雑音が聴取され、入院 4 日目の心エコーで僧帽弁逆流が認められている。

排尿障害

入院 4 日目に排尿障害をきたした。